

対話でつなぐ ほっこり通信

「いじめ」について様々な視点から考える

この道徳通信では、周防大島中学校で行われた道徳科の授業の様子を紹介していきたいと思います。今年度の第1号では、第3学年の道徳の授業の内容を紹介します。周防大島中学校の道徳科の授業では、どの学年も学年部の複数の教員でローテーションで道徳の授業を行っています。第3学年は、「いじめのない世界へ」というテーマで「無実の罪」「ある日の午後」「いじめから目をそむけない」という3つの教材をそれぞれの教員が担当し、3週連続で「いじめ」を題材にした授業を行い、「いじめ」について様々な視点から考えました。

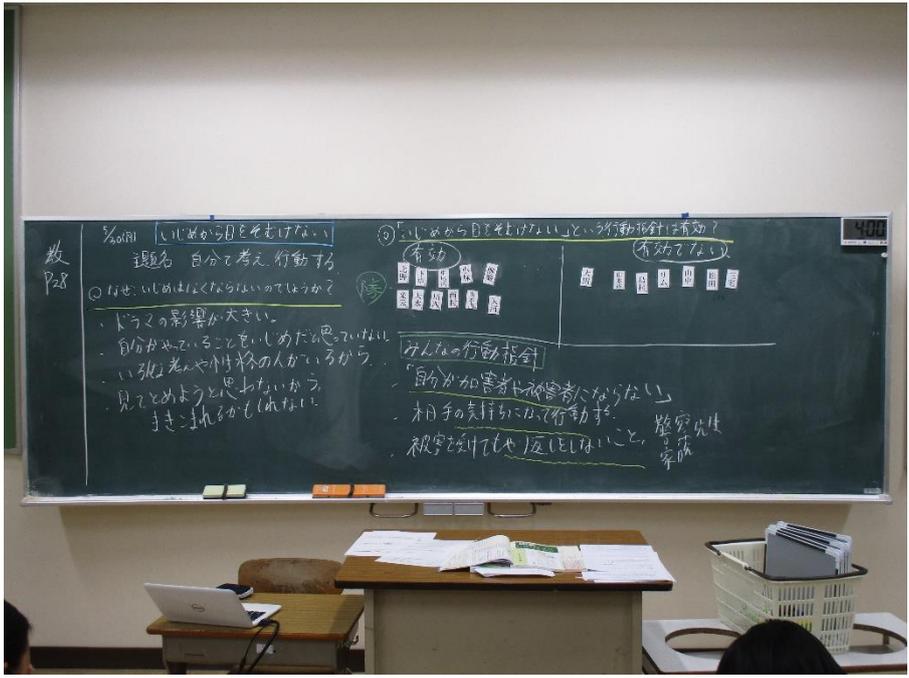
「いじめから目をそむけない」

この話は、いじめ防止に向けた行動指針を検討するための「中学生サミット」をテーマにしたものです。中学生サミットとは、様々な中学校から集まった中学生が、いじめを自分たちの問題と捉え、自分たちで解決策を話しあうために行われるもので、全国各地の自治体で実際に行われています。

授業のはじめに、近年のいじめの発生件数やいじめの4層構造などについて学習した後、「なぜ、「いじめ」をなくすことは難しいのでしょうか。」「いじめをなくすためには、一人ひとりがどのような行動をとればよいのでしょうか。」といった問いについて考えました。生徒たちは、真剣に考え、自分なりの意見をクラスメイトに伝え合っていました。「いじめ」を自分たちの問題として、目をそむけず、自主的に考え、判断し、予防策や解決策を誠実に実行して行ってほしいと思います。以下に生徒の感想を載せておきます。

生徒の感想

- ・いじめについて、友達がどう思っているか聞いたので良かったです。誰かがいじめられているのを見るのではなく、自分がその人のことを守ってあげたいなと思いました。
- ・いじめはよくないものだ改めて実感しました。
- ・相手の気持ちをよく考えることが重要だと思いました。
- ・いじめがあつたら絶対にとめないといけないと思いました。
- ・いじめをなくすために自分が加害者や被害者にならないこと、相手の気持ちになって行動することや、やり返しをしないことが大切だと思いました。
- ・一つひとつの行動に責任をもったり、その時の感情で言葉を発せず、落ち着いて話したりすることが大切だと思いました。
- ・いじめから目をそむけず、ちゃんと向き合っていきたいです。いじめられている人に頼られるような人になり、寄り添える人になりたいと思いました。
- ・いじめがどうしてなくなるのか改めて考えることができました。
- ・いじめに対して自分はどのような行動をとるべきか考えさせられました。
- ・自分の行動で助けたり、いじめをなくしたりできるのかもと思いました。



数
P28

① いじめから目をそむけない

題名 自分で考え行動する

② なぜ、いじめはなくなることはないのか

- ・ボウズの影響が大きい。
- ・自分かまえていることをいじめだと思っていない
- ・いじめ者も被害者もいるから
- ・見てとめようと思わないから
- ・まき止れおかしめない

③ 「いじめから目をそむけない」という行動指針は有効?

有効

有効でない

無効

無効

他人の行動指針

- ・自分が加害者も被害者にならない
- ・相手の行動に即して行動する
- ・視察時刻も反則しないこと

整頓先生
家庭